町医者だより

平成24 年01月号

＜発行・お問合せ先＞
おおわだ内科呼吸器科
院長　大和田　明彦
市川市南八幡４－７－１３
ｼｬﾝﾎﾟｰﾙ本八幡２階
ＪＲ本八幡駅南口(シャポー改札口)
２分ミスタードーナツ並び
ヘアサロンAsh向かいビル2階
電話０４７-３７９-６６６１

おおわだ
内　科
呼吸器科

COPD（慢性閉塞性肺疾患）の時代

ここ数年「COPD」という言葉を聞くことが多くなってきました。昨年も和田アキ子さんによるテレビCMをご覧になった方も多いと思います。「COPD（すなわちchronic obstructive pulmonary disease （慢性閉塞性肺疾患）の頭文字ですが）」は、主に喫煙によって生じる肺の破壊・炎症で、動いた時の息切れや気管支喘息と似た咳や痰などの症状を伴います。平成24年の町医者だよりでは、この「COPD」を今まで以上に取り上げて行こうと考えています。

欧米では死因の6位に位置しているCOPD

WHOが発表した2008年のヨーロッパや米国などの先進国での死因は、1位：虚血性心疾患（心筋梗塞）、2位：脳血管障害（脳梗塞、脳出血）、3位：肺がん、4位：アルツハイマー型認知症、5位：肺感染症、6位：COPD、7位：大腸がん、8位：糖尿病、9位：高血圧性心臓病、10位：乳がん、となっています。喘息による死亡率は年々減少しており、日本でも２０００人前後になっていますが。日本ではまだまだなじみのないCOPDですが、欧米では糖尿病などを抑えて死因の6位にランクされている非常にポピューラーな病気であることがわかります。すなわち、これから日本でも患者さんが増えてくると考えられます。

人間ドックの呼吸機能データーを活用すべきです

COPDの診断には、症状、喫煙歴などの問診とともに、呼吸機能検査または胸部CT検査による特徴的所見の有無を確認する必要があります。日本では人間ドックを受ける方が多く、必須項目ではありませんが呼吸機能検査（スパイロ検査）が含まれている場合が多いのですが、最近患者さんの話を聞いても何の説明もなく結果を手渡されるだけのようで呼吸機能データーが十分に生かされていません。ぜひとも「1秒率」と「1秒量」に注目してください。「1秒率」がもしも７０％未満ならば呼吸機能がかなり低下しています。「1秒量」から「肺年齢」が計算できます。インターネットで「肺年齢」を検索していただくと、「肺年齢．net」というサイトが出てきます。身長など必要な数値を入力すると「肺年齢」が表示されます。私は「肺年齢」が実年齢よりも2－3歳以上年を取っていれば呼吸機能の低下があると考えています。この「肺年齢」は、たばこを２０～30年と長期間吸っている方で上がってくる可能性がありますが、たばこを吸わない方や40歳未満の喫煙者の方で、もしも「肺年齢」が高ければ、喘息が疑われます。

COPDの治療に関する疑問

COPDの治療薬はかなりの部分が喘息の治療薬とダブります。以前からあったアドエア、スピリーバー（抗コリン気管支拡張剤）に加えて昨年9月にオンブレスという長期作用型β２気管支拡張剤が日本でも使用できるようになりました。これらの薬剤はすべて気管支拡張剤で、確かに患者さんの息切れの改善にはつながりますが、喘息に導入された吸入ステロイドのように病態の進行を遅らせたり、死亡率を減少させる薬剤なのか、これから私も勉強していかなければならないとか思っています。